

和

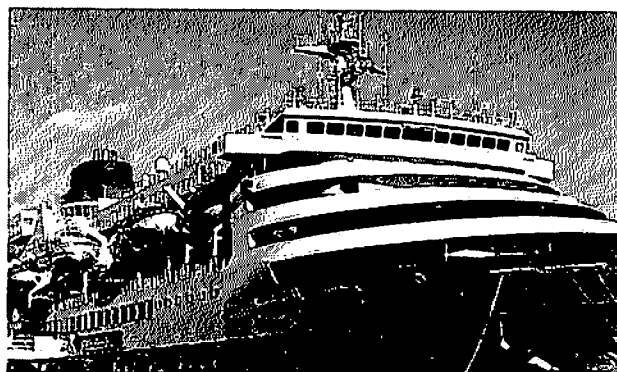
やわらぎ

SSKP

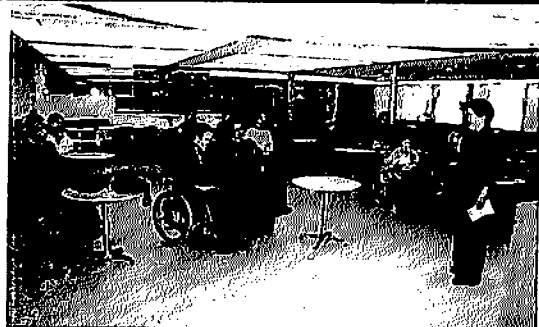
発行
全国脊髄損傷者連合会
神奈川県支部
〒246-0006 横浜市瀬谷区上瀬谷町26-28
電話 045-922-6324

編集人
山崎 昇

ホームページ <http://www.maxhi-ho.ne.jp/yawaragi/>
メールアドレス yawaragi@max.hi-ho.ne.jp



他支部の皆様とも交流できました



豪華客船「ふじ丸」での研修会&ディナー・フルコースを満喫

関東甲信地区ブロック会議 3

飯木県大会報告 神奈川県支部長 山崎 昇

川崎協会主催 研修会 4~5

創立50年 全脊連の活動を振り返って

.....そしてこれから

事務局長 要屋 明

医療セミナー 講演(要約) 6~9

「メタボリックシンドロームと食生活」

さがみ緑風園管理栄養士 田村 須美子

神奈川リハ病院職能科の支援の紹介 10

グランドゴルフ大会・横浜港遊覧とお食事会・

イチゴ狩り・自転車無料点検 11



神奈川トヨタ 暮らし方上手をお手伝い 福祉・介護カーショップ

乗る人、乗り方、いろいろあります。
たのしいクルマ、いろいろ作ります。

神奈川トヨタ取扱いの福祉車種【ウエルキャブ】のワイドバリエーションはもちろん、
現在お乗りの車もメーカーを問わず、お客さまのご要望にあわせて改良いたします。

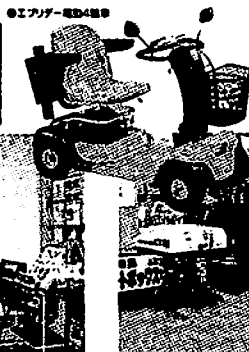


●シートバックアップ



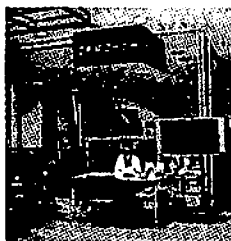
●スタアソングホイール/フ

●エプリアー電動4輪車



介護・自立がテーマの高機能商品、
ご提案します。

たとえば段差昇降機や電動クルマ椅子など、
介護をする方にもされる方にも、便利で高機能
な商品を揃えました。



いろいろな公的補助、
アドバイスやご提案します。

福祉車種のお求めや改良に際し、国や地方自治体
では各種貸し付け・助成制度や優遇税制制度を
用意しています。助成条件のご案内はもちろん、
申し込み方法などお客さまと一緒に考えて参り
ます。

自分らしく日々を暮らすご相談、なんなりと。

スタッフは福祉車種改造のスペシャリストを始め、日本
チェアスキー協会会長・元日本障害者スポーツ協会理事
伊佐幸弘氏など、強力スタッフ陣がお待ちしています。



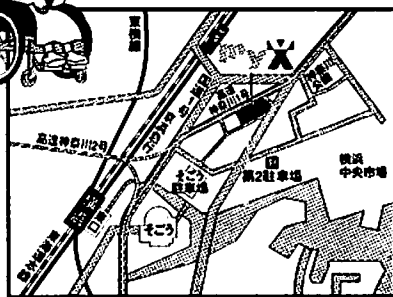
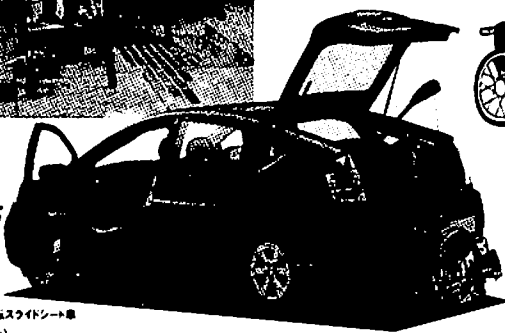
レジャー&スポーツの楽しみ方、
ご提案します。

グッドオープンエアズ・マイクスと連携、
初心者から楽しめるスポーツ&レジャーを
ご紹介。バスケットボールやチェアスキーは
当ショップのおすすめメニューです。



Welcab
PRIUS
ウエルキャブ
新登場

Photo: プリウス 助手席側スライドシート車
"Bタイプ" (左側はオプション)



横浜市神奈川区栄町7-1 マイクスビル2F TEL:045(459)2112
営業時間/10:00~20:00 www.kanagawatoyota.com



TOYOTA 神奈川トヨタ

第三十一回(社)全国脊髄損傷者連合会関東甲信地区ブロック会議

栃木県大会報告

支部長 山崎 昇

関東甲信地区各都県の脊髄損傷者代表が一堂に会し、第三十一回栃木県大会が、平成二十年十月七日、日光市鬼怒川温泉、ホテルニュー岡部で、開催されました。

この大会の目的は、重度身体障害者、特に車いす生活者の福祉向上と、社会への積極的参加を目指すもので、各県における福祉活動の指針作りを目標に、情報交換・討議を行いました。

各県支部より八十名(ボランティア含む)、神奈川県支部からは、四名が参加しました。

開催支部、次期開催支部代表が議長、副議長となり、午後一時三〇分頃より、議事が始まりました。

○本部提案議題

第八回全国総会大阪府大会参加要請

開催日 平成21年6月

5日(土) 代表者会

6日(日) 総 会

7日(月) 観光ツアー・解散

連合会五十周年にあたり、大勢の皆様に参加をお願い致します。

○脊髄損傷者によるピアサポートモデル事業を実践するようお願いいたします。

ピアマネジャーの養成事業を三年間にわたって行い、全脊連全体で一六八名ピアマネジャーが誕生しておりますので、ピアサポート研修会を各ブロックにおいて開催することを要請されました。東京支部が開催することになりました。

○全脊連の今後の活動についてご検討をお願いします。

(社)全国脊髄損傷者連合会は平成十四年三月十四日付で厚生労働省より認可され、法人格を取得いたしました。以来六年間が経過し、その間、社会貢献を含めた活動を広く展開してまいりました。しかし、従来の要望活動を含めた活動のみでは会員の減少に歯止めが掛からない状況にあります。

ここで、改めて全脊連のあり方について、初心に戻り検討する時期に來ていると考えられます。各都道府県支部ごとに相談窓口を開設するなど、ピアサポート活動を含めた新たな社会貢献活動を模索する事が求められております。

十分ご検討いただき、その上で結果を本部へ連絡すること。

千葉、埼玉県支部は、活動していますが、他支部も検討いただき、本部へ連絡する事となりました。

○各支部提案

毎回大会で、問題としている、障害者用駐車場、トイレ、セルフ給油スタンドについて、栃木県支部よりの報告では、障害者駐車場には、入り口に自動開閉バアを設け、障害者自身が県、市町村、企業に申請し、リモコンの配付を受け利用します。今までもいろいろ報告がありましたが、まだ問題は解決しておりません。根気よく訴え続けて行くことだと思います。

○次回開催について

茨城県開催を確認し、ブロック会議を終了いたしました。

○懇親会

夜、懇親会が開催され、各支部、本部役員との交流、愚痴話で盛り上がりしました。翌日のランドゴルフ大会の活躍を誓って解散。

八日開催の関東甲信ブロックスポーツ交流会「ランドゴルフ大会」が日光市だいや川県立公園内ランドゴルフ場での開催予定でしたが、雨天のため中止となり、昼頃弁当もらって解散となりました。

川崎協会主催 研修会(講演要約)

創立五十年 全脊連の活動を振り返り

(社)全脊連理事長

……そしてこれから

妻屋 明

発足について

脊損連合会は今からちょうど四十九年前に創立し、来年は五十周年に当たるわけです。

これは何を隠そう、神奈川県箱根療養所で起こった話です。その頃はガリ版しかなく、郵便と電



あつき思いを語られる妻屋理事長

話が通信手段だったと思います。移動手段もほとんどなく、箱根療養所から霞ヶ関の厚生省だとか労働省にタクシーで通ったという話が記録にはありません。

そういう状況の中で、全国の労災病院に入院する脊損患者に手紙で「みんな一緒にやらないか」と一斉にやったところ「うちも、うちも」という声が上がって、二十二の労災病院から九百名が集まりました。

そして身体に障害を負い一生過ごすには、絶対医療は欠かせないということで「医療費の無料化」、それから「所得保障」、労災補償を「年金制度に」という「三大目標」を掲げて、団体「患者療友会」が発足しました。

活動が始まる

当時は労災補償者が多かったのですが、三年で治療と給付が打ち切られると路頭に迷ってしまう、やはり一生の年金制度にしないではならないという

ことで、一大運動が始まったわけです。そして発足翌年の一九六〇年に法律が作られ、労災補償が年金制度になりました。

これが脊損連合会の最初のヒットで、これに勢いづいて団体はさらに大きくなっていったわけです。それから一九七四年、労災年金は従来六割補償でしたが、ボーナスをつけなさいということとで、二割上積みされて八割補償されて現在に至っています。

その次に、ある程度年金制度が確立すると、社会に出て最初の問題はバリアフリーということになります。外に出ても車いすでは何処へも行けないということとで、市町村道の交差点の段差解消を行いました。今では新バリアフリー法などの法律によって常識になっていますが、こういう成果をその当時上げたわけです。その後は一つできると次から次と道路の段差解消が行われました。それから役所や公会堂など公共建築物にトイレがきたりスロープを作ったり、バリアフリーになっていきます。最初に神奈川県で車いす市営住宅が平塚市と大和市にできました。これも連合会がさまざまなアプローチや要望をしていきましたので、このような成果につながったのだと、私たちは訴えたいと思います。

それから一番大きいのは一九七二年に施行された医療費助成制度で、神奈川県に対して「医療費を免除して下さい」という要望をやりました。それが功を奏し「じゃあ、そうしましょう」ということになって、まず神奈川県で医療費助成制度が確立したわけです。その後、この影響は各地に飛び火し、東京、山梨など近県に、そして数年間で全国に広がることになりました。この制度が確立したことだけでも、私たちは先輩に足を向けて寝られない程の大きな成果でした。

活動の喜び

成果等を列挙した資料がありますので、あとでよく見ていただきたい。一九七五年以降「ひかり号に専用室の設置」、「都道府県公社等の有料道路の半額割引」、「八代英太の参議院議員初当選」などの成果があります。こういう成果を連合会は上げてきたということ、ぜひ意識していただきたいと思えます。

私がここで、なぜこのように言うかといいますと、私は一九七五年から一会員として運動に参加するわけですが、「高速道路の通行料金の半額割引」の運動には病院からちよつと抜け出して、自分が実際にデモに参加してシニプレ

ヒコールを上げながら、銀座だとかその辺をうねったことがあります。やがてこれが半額割引になるのです。運動をし、それで実際に自分が高速道路を利用し半額割引の恩恵を受ける。これほど冥利につきたことはありません。自分で運動して自分で勝ち取り、自分で利用するわけですから、嬉しかったです。その時はひとしお嬉しかったです。

先輩たちへの感謝

この時期から私は運動に参加するわけですが、ほとんどのことを新田さんがやっていました。新田さんは中央厚生省の委員になり、中央身身障対策協議会の専門委員に就任して、総理大臣のもとでいろいろな意見を言うというチャンスに恵まれ、一九七三年には身体障害者福祉審議委員に就任します。このお陰で今、連合会は社会保障審議会の障害者部会の臨時委員になり、自立支援法などの審議に参加して、いろいろな意見が言える立場をずっと維持しています。これらはすべて先輩、新田さんたちの活動のおかげだと思っています。先輩たちがつけた道筋に、後の人は更に力を付け、それにちゃんと乗っていかなくてははいけないと思います。

これからの全背連

まず「自立支援法の完成を目指す」なければいけない。これは大きなことです。やはり、これは完成を目指さないと、われわれ安心して枕を高くして寝られないことがありますので、これは引き続き力を入れてやらなければいけないと思っています。

それから「福祉、年金、医療、バリアフリー」は、引き続き不十分については、われわれは満足するような社会環境にしていく活動を続けていく。これは一方で確実にやっています。

それから「ピアサポート活動を通じて全国的な脊髄損傷者の相談支援体制の構築」をやらなければなりません。

なぜかという、自分の過去を振り返ると、全てこのピアサポートのおかげで今があると思っています。あのとき社会で生活するためのいろいろな情報を教えていただきました。詳しい人がいっぱいおり、情報には本当に事欠かない世界にいました。それがあつたから、自分で将来設計ができたと思っています。これを次の世代に受け継いでいかなければいけないと思っています。本当の幸せは、やっぱり人のことを考えて、人のことを何とかしてあげて幸せがあるのだと、今、本当に痛感しているのです。それはまさしくピアサポ

「ト活動です。これを実践することによって、その喜びが得られ、満足します。自分はいろいろな欲があるけれども、それを全て満たしても、それだけでは幸せにならないというのが元々の考え方です。」

最後に一言

そういうことをやりながら、脊髄損傷者の立場から社会を変えるための発言力をますます大きくして、さまざまな提言を行い社会を変えていくという意欲に、今、燃えているところなのです。もうあと数年しかありませんので、その間にどれくらいできるか分かりませんけれども、私は一生を捧げるつもりで今やっているつもりです。

それから私は次の後輩を求めています。こういう活動をやっていると、この中にいっぱい喜びがあります、その喜びを味わってもらいたいと思います。先程言いましたように、自分で一生懸命運動してデモをやりました、何とかやって要望を突きつけました。いろいろなことをやって、やがて自分がそれを利用することになります。これほど幸せなことはないと思います。だから、今、連合会本部は新しい役員を求めています。ぜひ勇気のある方は参加していただきたいと思っています。

医療セミナー

講演(要約)



「メタボリックシンドロームと食生活」

県立さがみ緑風園 管理栄養士

田村 須美子

今世間ではメタボ、メタボといわれています。では、メタボの予防というと、何か考えることはありますか？参加されているこちらの方が、生活習慣病じゃないかといわれたのですが、その通りなのです。ちよつと前まで生活習慣病といっていました。今はメタボということです。では、その前は何かといわれていたか、思い出せますか？

生活習慣病の前は、同じ現象でしたが「成人病」といつていたのです。

ではどうして成人病といわれていたかというと、どうも四十歳過ぎた人におこりがちなということで、成人病といわれていました。

具体的には、太りすぎじゃないかと。でも太っていると肥満症といわれるとか、血圧が高いとか糖尿があるとか、こういうことをまとめて成人病といってきたのです。子どもでも太っていたり、血圧が高かったり、糖尿だったというところが、今から二十年ぐらい前にも出て来たのです。

それで大人になってからの予防じゃなくて、子どものときから予防しなくてはいけないと、神奈川県で付けたその対策の名前が、「小児成人病」といいました。

“子どもがかかる大人の病気”といっていたのです。そうしたら聖路加病院の日野原先生が、子どもでもなるのに成人病という名前はピッタリじゃない。何が原因でなるかというところ、その人の生活習慣が長く積み上げてきたものが、四十歳ぐらいになって出てくるわけですから、もとは生活習慣にあるということで、「生活習慣病」と呼んできました。

生活習慣病という言葉も生きているのですが、なぜメタボというようになったかというところ、メタボリックって何か、日本語にすると『代謝』という意味です。

ご飯を食べる、それがエネルギーになって、いらぬものは排泄され、食べたものが回っていきます。そのサイ

クルが上手いかなくなって病気になるということ、メタボリックという言葉に直ってきたのです。

では実際に今から何をすればいいのか。よく「バランスの取れた食事」をしましょうといわれます。バランスを取るとはどんなことだと思えますか? 食事のバランスというのは、食べ物1個1個の組み合わせも大事ですけれど、それ以前に、朝ご飯、昼ご飯、夕ご飯をそれぞれ食べる、そして寝るということが基本です。

この時のポイントなのですが、何時に寝るか、夕食を何時に食べるかというのが、このバランスの取れた食事にとって、関係があるのです。夕食を何時に食べるか、何時に寝るかというのは、その人の生活リズムによって、本当にいろいろなパターンがあります。それは仕事の都合で、深夜業務でタクシートの運転手をやったり、三交代で夜働いたりというのです。夕食が朝ご飯みたいな感じになる人もいます。昼ご飯というのは大体の人は、十二時から一時ぐらいの間には食べています、でも夕食を食べる時間というのは本当にもちまちまなのです。

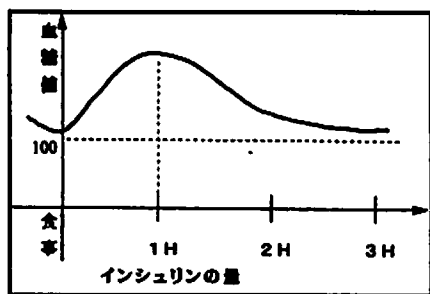
夕飯が九時、寝るのが深夜一時とすると、寝るまでの間が四時間あります。

この間、食べない、水以外飲まない、これが理想的な食べ方です。夕食を食べてから寝るまで、四時間くらい空いているのが一番賢い食べ方なのです。最低でも夕食を食べたら二時間は寝ないようにといっています。例えば、十時に寝たかったら、八時までにはご飯は食べてしまった方がいいです。だから自分が何時に寝るかというのが決まったら、その前倒しで、夕食を食べる時間を決めます。理想は四時間空けて欲しいのですけれども、四時間も空けると、何か食べたい、飲みたいというものが出てきますから、最低でも夕ご飯を食べたら、二時間は寝ないということを守るだけで、すごくメタボの予防になるのです。

ここでご飯を食べます、それから一時間、二時間、三時間経ちましたというように、横軸に時間を取ります。そして、縦軸に血液中の血糖値を表します。健康診断を受けますと、空腹時血糖がいくらかと出ます。一〇〇くらいが限度なのですけれども、それを超えているとAじゃなくてBが付けられます。血糖とは、血液の中に入っている糖です。皆さんがジュースを飲んで、ご飯を食べても、最終的には全て血液の中に入ります。

お腹が空いている時の血糖値が、例えば、一〇〇ぐらいとしたら、食べて一時間経つと血糖値がグーンと上がります。二時間経つとまた正常になります。これは糖尿の気が全くなくて、インシュリンの分泌が、正常に行われている人の場合は、空腹時に食べてから一時間で血糖値がピークに達します。二時間経つと大体空腹時と同じぐらいに血糖値が下がってきて、また食べたら上がっていく、次表のような曲線を描くのです。ですから二時間以内に寝てしまうということは血液の中に糖分、甘い成分がいつぱい入ったまま寝てしまうということ、血管を砂糖漬けにした状態が長引くということなのです。二時間経つと丁度いいぐらいに落ちてきますから、二時間過ぎてから寝るのがいいのです。

では、私が先ほど何で四時間空けるともつていいのか、というのは、もし糖尿病の気があるとか、家族、両親・兄



弟・叔父さん叔母さんあたりで、糖尿だという人がいる場合は、このインシュリンの出方が、四十歳過ぎてくると量も少なくなつて来たり、反応が遅くなつたりするのです。一時間でピークになつたのに、落ち方がすごく鈍くなつて来ってしまうのです。

三時間とか四時間ぐらいたつたら落ちてくるというのは、完全に糖尿ではありません。糖尿の気があるといわれるような人の場合には、二時間でガクンと落ちるのです。だからもしそういう人の場合は、用心して、できれば三時間とか四時間経ったら落ちてきますから、それぐらいで寝るほうがメタボの予防にはなるということです。

ただ先ほど、メタボというのは、代謝ですといったのですけれども、代謝異常というのは、食べたものが二時間できれいに血管の中から、他の細胞にお仕事しに出て行つてくれないことなのです。

血管の中にいつまでも留まつて、糖がなかなか出て行つてくれない、出て行つてくれないのに次の食事の時間が来たら、また血糖値が上がります。落ちきらないのにまた上がることを繰り返している、血糖値の高い状態でずっと血管が砂糖の中で漬けられたような状態になるので、最終的には糖尿

病ということになります。

糖尿病で、一般的に細い血管が痛められるというのは、目の血管とか脳の血管とか手の先っぽ、手の先は細い血管につながっている、そういうところが痛んできます。

とにかくよく老化は血管からとか、足からとかいろいろいわれますが、血管を守ることが、メタボの予防にとつても大事なことだと思います。

具体的な防止法……

一点目は、ご飯を食べてすぐ寝ることをやめるだけでもかなり予防ができます。

私が、保健所に勤めていた時に、糖尿病になつた人の家庭訪問をよく行っていました。今でも忘れられないのですけれども、症状が進んでくると、目に来るとか、目が見づらくなるとか、足とか手先の細い血管がやられますから、熱いとかが感じられなくなるのです。神経がやられますから、だんだん鈍くなるのです。

寝るよりも、座っているほうが、エネルギーを使います。地球の重力に逆らうということは、エネルギーを使います。疲れたときは、重力に逆らいたくありませんから、なるべく自分の体が地面に多く付くようなことは選

せん。足を上げるとか、布団の中でも起き上がつて座ることは、それだけ重力に逆らっていますから、エネルギーを使います。布団に入つて寝てしまうよりは、起きていることが正解です。

質問……

私たち頸椎損傷は、代謝異常だといわれているのですが、腹が減つたら目が回るし、突然力が抜けてしまうのです。それは腹が減つた時にそうなるのです。あわてて食物を食べて、上げようとしめます。でも時間がかかります。前述された血糖値の変化表のカーブ、あの通りに二時間経つても下がらないのです。四時間ぐらい経つたら下がるのですが、あの表のカーブがずっと上がったように続いていくのです。食べるとまた上がりつばなしになるので食べないのです。朝飯食べて、昼飯食べないで午後四時ごろ、八時間くらいたつて表の下の方にラインに戻るのです。でも私は、糖尿の気はないのです。

回答……

そういうケースは、知りませんでした。勉強不足で、それは分からないです。

ただ、一般的なケースにあてはまらない人の場合、前述した血糖値の表が

適応されません。特異なケースへの勉強を今後は、進めていきたいと思えます。

二点目は、食べる時間です。何分ぐらいかけて食べるかということも、メタボの予防には関係があります。

皆さんは、食事時間に何分ぐらいかけていますか。十分〜十五分ですかね。私は二十分かけています。二十分を食事時間にかけるというのも難しいことかも知れません。

とにかく「丸のみ、だめよ」、「もぐもぐしてね」。歯が閉じる、唇が閉じられるというのは、ものすごく大事なことなのです。

勤めている施設の園長と看護師さんたちに「のみ込むということが、どんなに大事かを体験してもらいます」といって、プリンを全くかまないで、一気にのみ込むということをやってもらいました。そしたら、園長ののどが詰まっちゃいました。

口のもぐもぐとやっていると、「食べるものが来るぞ」と分かるわけです。そうすると自動的に気管が閉まって、食物を通すのです。食物を口に入れた瞬間、「一口もかむな、すぐにのみ込め」とやったら、普通の人でも、のどが「うつ」となって、詰まっちゃいます。

死にそうになります。

だんだん歳を重ねていきますと、いろいろなところが、鈍くなってきたりします。半身マヒになったりしますと、気管が閉じなければいけないのですけれども、閉じているかどうか分からなくなってきました。半身マヒの人は、のみ込むことで、すごく苦勞するのです。

私が、健康教育で何をやっているかといえば、「丸のみだめ、もぐもぐする、食べるときはなるべく体をまつすぐに」の三つを話しています。

バランスの取れた食事とは、野菜を食べる、いろいろなものを少しずつ食べる、この二つは、とても大事なことです。ご飯があつて、魚や肉や卵があると、とってもおいしい食事をしたような気がして、野菜の存在が忘れられがちです。

だから、野菜を食べよう意識することはとってもいいことで、バランスのいい食事というのは野菜を欠かしてはいけない、ということは大正解です。そして、もう一つ、いろいろなものを少しずつ食べること、これも大当たりなのです。

先ほどメタボリックシンドロームは

生活習慣病というように、生活習慣からくるのですよという話をしました。

習慣という字は、習ってから慣れるという字を書くように、いい習慣を付けたいなと思ったら、最初は意識して、例えば、「野菜を忘れないように食べるんだ、野菜は毎日食べなくちゃあ」というように意識をしていると、無意識のうちに、必ず野菜が食卓に出てくるようになります。

それから、いろいろなものを少しずつという人の場合は、大好きなもので腹いっぱいにならないということに気を付けないと、いろいろなものが食べられなくなりそうですから、好きなものでも少ししっておこう、嫌いなものでもちよつと食べようということ意識して、毎回意識していると、それが当たり前になつてしまうようになるのではないかと、そういうふうになると、初めて習慣が付いたことになります。

また、いい習慣というのは、やらないうちから悪いなというところまで持つていけば本物で、それは何歳からでも遅くありません。何か一つ自分で、これは身につけたいなと思ったら、意識して、そのうちに無意識でもできるようになれます。そうしたら、よい習慣が身に付いたと、いえるのかなと思います。

在宅でお仕事を希望される方へ

神奈川リハビリテーション病院職能科の支援の紹介

頭頸損傷などの四肢麻痺により、通勤困難な方への在宅就労支援には、専門的な支援が必要です。

職能科では、神奈川リハビリテーション病院の入院・外来患者様へ、早期の段階から職業相談・評価・訓練・就労支援などの職業リハビリテーションを提供しています。医師の処方に基づき、障がいの状況やリハビリテーションの段階に応じて、職業指導員が他のリハビリテーションスタッフと共に支援いたします。

職業相談では、「将来、在宅で仕事がしたい」「すぐに在宅で仕事をしたい」「在宅でパソコンの勉強をしたい」等の仕事に関するご相談や、職業生活に関わる在宅でのケア体制、在宅で仕事をする場合の家屋環境整備等の生活に関するご相談に応じます。

支援内容は、在宅勤務の紹介、見学や障がいの状況に合った支援機器等の情報提供や、労働時間を想定した職能訓練とビジネスマナーなど仕事に必要な知識・技能の研修をいたします。そして、履歴書の作成、面接の練習など求職活動の準備を支援し、ハローワーク、就労支援機関等への登録支援や会社の採用面接への同行支援をいたします。そして、就職後の定着に向けたアフターフォローをいたします。

このような支援を実施する際、地域生活に関わる分野では障がい当事者団体や保健、医療、福祉の関係機関と連携し、在宅就労に関わる分野では在宅IT支援機関やハローワークなど地域の就労支援機関と連携します。

ご利用方法については、リハ科受診前に面談を行います。下記連絡先までご連絡ください。事前相談の日程を調整させていただきます。

月～金曜日 9:10～16:30(12:00～13:00、祝祭日除く)

046-249-2571・2575 担当：泉、松元、岩本

神奈川リハビリテーション病院 職能科ホームページ

<http://www.kanagawa-rehab.info/riha/vr/vr-top.html>

グラントゴルフ大会 の報告

西湘協会長 宝子山 正博

二十年十月三十一日に、金太郎さんで有名な足柄山のふもとにある「南足柄市運動公園」で開催いたしました。遠く千葉県支部からの参加もあり、平日でしたが、二十名の参加で行いました。

成績

一位 松田 利夫

二位 中内 貞夫

三位 秋本 順一

四位 明比 勅

五位 城ノ上 友一

二位の中内貞夫さんが、ホールインワン賞を

きめました。

「おみごと」でした。

また、上位三位までが

千葉県支部の方々でした。

さすが日々練習している方は「強

かった」。



私の感想としましては、順位より皆様とのお弁当タイムが大変楽しかったということでした。

それでは、またの日を……

「横浜協会」 横浜港遊覧と

中華街お食事を 開催しました!

神奈川県支部横浜協会は、昨年十月十日(金)、山下公園から午後二時半に出港するマリン・ルージュで一時間の横浜港遊覧と中華街での会食を開催しました。

マリン・ルージュには十八名の参加者があり、船内での歓談や横浜港内の遊覧を楽しむことができました。

また、クルージングの後には山下公園や中華街を散策していただき、その後「萬珍樓點心舗」に集合してお食事会となりました。

たまたま、十月十日は、中国の建国記念日にあたる「国慶節」というお祭りの日で太鼓や爆竹などの鳴り物や獅子舞、龍舞やカラフルな民族衣装のパレードで大変にぎわっておりました。萬珍樓のお食事会には約三十名の方に参加いただきました。

午後六時から八時までの二時間を美味しい中華料理のコースでたんのうしました。神奈川県支部の会員の皆様のほか、埼玉県支部からも参加いただき本当に楽しいひと時を過ごすことができました。

参加していただいた皆様、関係者の皆様ありがとうございました!

(横浜協会長 新田輝一記)

甘いダイヤ

イチゴを満喫

県央協会 路川 十九夫
去る二月十五日、神奈川県支部県央協会では、静岡県久能山へ一足早い春を訪ねて、イチゴ狩りツアーを実施しました。二月とは思えないとても暖かい天候に恵まれ、車いす用のリフトバスは東名高速を走り、足柄サードサービスエリアで休憩をとり、目的地地丸金農園へ向かいました。
車窓から見えるコバルト

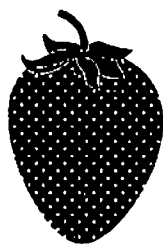
ブルーの駿河湾の光輝く海を眺め、右側には石垣イチゴのハウスが軒並み並んでいて、しばらく走ると私たちが行く丸金農園へ到着。甘い大粒のイチゴをお腹いっぱい頂き農家の野菜をお土産にもらい、昼食場所の焼津魚センターへ向かいました。お刺身定食を食べ、市場では買い物自由行動。日曜日のこの温暖な天気

のせい、ととても混んでいました。それでも皆さんお土産いっぱい買い込んでいました。

日頃マイカーを移動手段として動いている私たちにとつてバスの旅は、少々大変かと思いますが、景色を眺めながらのんびりバスに揺られる体験もたまには良いものではないでしょうか。

参加されました皆さん、大変お疲れ様でした。イチゴ狩り

はいか
がでし
たか?



自動車無料点検

実施される

昨年十月二十五日、神奈川リハビリ駐車場において「自動車無料点検」が実施されました。JAF自動車連盟神奈川県支部の隊員、ニッシン自動車工業の多くのスタッフの協力を得ましてエンジン、タイヤの状態を総点検して頂きました。

またニッシン自動車工業の方には手動式の点検、オートボックス、他改造個所を丁寧に調べて頂きました。車いす使用者にとつて移動手段に必要不可欠な愛車をしっかり管理し、大切に乗り続けたいと思います。

早朝より夕方まで約六十台以上にわたって一台一台点検して頂き、JAF、ニッシン自動車工業のスタッフの皆様にご心より感謝致します。毎年この時期行われる点検にはぜひとも多くの会員さんに参加して頂きたいと思っています。

Go to drive together.



人と車の未来が広がっていく。



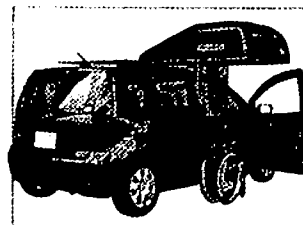
快適なカーライフをお届けするために、ニッシン自動車グループは歩み続けます。



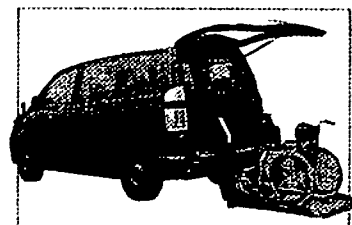
APドライブ



オートスピーコンII



オートボックス



オートリフト



福祉車両総合メーカー 株式会社 ニッシン自動車工業 全国をトータルにサポートいたします。

本社
〒349-1148
埼玉県北埼玉郡大利根町霞野台1-563-12
Tel.0480-72-7221 Fax.0480-72-7223
E-mail:jikou@nissin-apd.co.jp

愛知豊明工場
〒470-1161
愛知県豊明市栄町新左山1-755
Tel.0562-97-1091 Fax.0562-97-1092
E-mail:toyokake@nissin-apd.co.jp

NISSIN JIDOUSHA GROUP

一九七七年十二月三日第三種郵便部認可
二〇〇九年三月二十九日発行(毎月十八回)・二・三・五・六・七の日発行)
SSKP増刊通巻第四〇九四号

編集人

横浜市瀬谷区上瀬谷二六―二八

「和」編集部 山崎 昇

発行人

特定非営利活動法人 定価 三〇〇円
障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧六―二六―二二